

令和5年度 経営学部 第3年次編入学試験【出題の意図】

〔経営学〕

問題1は、モチベーション論の中から、最も精緻であり注目もされている目標設定理論の考え方を問い、かつこの理論と目標管理制度という現実の制度とのリンクを問うものである。問題2は、戦略論や組織論など、経営学の幅広い領域における重要概念である規模の経済性について問うものである。経済学由来の概念ではあるが、組織規模や生産量等の拡大がなぜ組織にとって合理的であるのかを理解する上で、この概念の理解は不可欠といえる。問題3は、近年注目される両利き性の概念の理解を問うものである。古典的な経営学だけでなく、比較的新しい（がすでにスタンダードとなりつつある）概念をもカバーできているかどうかを問うものである。

〔会計学〕

問題1 日本の企業会計制度に関する基本的理解を問う問題である。会社法会計、金融商品取引法会計および税務（法人税法）会計のそれぞれの目的、利用者、監査等のあり方、相互の関係を首尾一貫して記述することが求められる。

問題2 企業会計における資本と利益の区別の意味と必要性を理解しているかどうかを問う問題である。

問題3 原価計算の目的として、①財務諸表作成、②価格計算、③原価管理、④予算編成・統制、⑤経営計画の5つを理解しているかを問う問題である。

問題4 複式簿記における勘定間の関係あるいは流れの理解を問う計算問題である。

〔マーケティング論〕

マーケティング論の基本概念を理解し、具体的な事例や企業のマーケティング活動などに関連づけながら論じることができるかを確認する。

〔経済学〕

1. 消費者の効用最大化問題を解き、需要関数を求める問題である。
2. ゲームの利得表から、純粋戦略ナッシュ均衡と部分ゲーム完全均衡を求める問題である。
3. 価格差別が認められる場合の、独占における企業行動の問題である。
4. 経済学の標準的な用語について、説明を求める問題である。